

立体磁石内蔵カードの作り方

<立体化／磁石を内蔵する理由>

ひらがなカードは、厚紙に貼り付けたり、印刷したものを直接ラミネイト加工したりしてつくることができるのですが、せっかくならば磁石を内蔵して作ることがお勧めです。磁石が内蔵されていることで、

- ・厚みと重みがついて操作しやすくなる。
- ・カード同士が貼りつく際に固有感覚（手ごたえ）が入り、「できた」ということが実感しやすい。
- ・カードが散らばらない、なくならない、即座に表／裏を整理できる。
- ・ホワイトボードや磁石がつく机の上に置くと、ばらけない。応用で、黒板や書見台で使うことができる。

といったメリットがあります。デメリットとしては、子どもにもよるのですが、カード同士をくっつけて遊んでしまい字の学習になりにくくなる可能性があります。



木でつくる、あるいは金属製にするのが理想ですが、ここでは身近な道具で作成する方法を紹介します。



<使用する材料、道具>

- ・カラーボード（A3サイズ、厚さ10mm）×3枚 ※百円均一で売っている
- ・強力マグネット（直径20mm×厚さ5mm）×25個×4セット ※百円均一で売っている
- ・梱包用の透明テープ・重量用 ※ホームセンターで数百円で売っているもの。軽量用は使いにくい。
- ・はさみ、カッター、カッター台、丈夫なセロテープ。

工程①

材料を揃えます。



梱包用テープは多少高くとも「重量用」がお勧めです。加工しやすいうえ、その後のカードの劣化具合が違います。

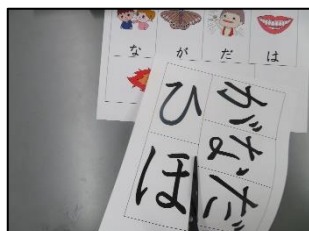
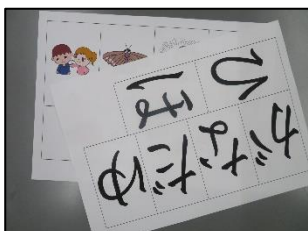


ちなみに、製本用のブックカバーは使用しません。高価すぎるというのがありますが、厚すぎて、磁力を妨げてしまうためです。



工程②

プリントを印刷し（スーパーファイン紙など推奨）、はさみでカットします。



このままラミネイト加工してもカードにはなりますが、もうひと手間加えていきます。

工程③

カードのサイズに合わせて、カラーボードをカットします。48個作ります。



定規を使って、丁寧に切る人もいます。

工程④

強力磁石をカットしたカラーボードの中央にあてがい、力を入れて押し込み、跡をつけます。そしてつけた目印に沿って、カラーボードをカッターでくり抜きます。



工程⑤

くり抜いた穴に強力磁石2枚を入れ、セロテープで頑丈に固定します。品質の良いセロテープを使わないと、最終的に梱包用テープで巻いたあと、その中で磁石が外れて動いてしまい、残念なことになります。



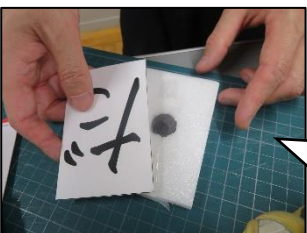
ガッチリと固めます。

さらに磁力を強くしたり重くしたりしたい場合、2か所に穴を開けて磁石を4枚入れてもいいでしょう。



工程⑥

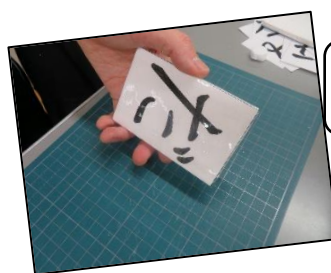
カードの前後に、文字面と絵の面を固定します（セロテープで可）。この時、磁石の反発を踏まえて、全部のカードの文字面と絵の面の方向が揃うようにしてください。1つでも間違っているのがあったら、ものすごく残念な結果となります。



梱包用テープで巻く前に、必ず磁石の反発の方向を確認してください。

工程⑦

最後に、梱包用テープでカードを巻きます。これは、慣れないうちは失敗が多いと思います。



完成！

